

本は平成二十一年八月十七日から八月二十八日まで二週間の間に、熊本大学医学部総合研究棟二階の解剖学実習室で開催され、学内及び学外から総勢一四名の方が参加されました。

当セミナーは三回のセミナーを一クールとして全身を解剖するように計画されています。今回は第四クールの第二回目にあたり、上縦隔の観察から始まり、胸部内臓を一括摘出して全体の局所関係を観察した後に、肺と心臓を分離しそれぞれの外景や内景を観察しました。腹部内臓も血管や神経と共に一括摘出した後に、個々の器官の観察を行いました。特に肝臓は、その実質を除去して門脈や肝静脈の分岐状態を観察しました。続いて後胸腹壁や腎系血管、腰神経叢の構成とその枝の大腿伸側での分布、殿部から大腿屈側・下腿・足にかけての神経や血管の分布状態を観察しました。最終日には発表会を行い、参加者各自が興味を持った部位について発表してもらい、所見の見方、関連する事項、判断する基準、今後の研究の進め方などについて質問や意見交換が活発に行われました。

人体構造を観察理解するために同胞の遺体を解剖することは、通常、医・歯学部の教官と学生に限られています。しかし医学医療がますます細分化し、高度な先端医療が求められる状況の中で、このセミナーでは、広く医学医療に関わる人達にも、実際に人体を解剖し、人体の構造を詳細に観察するだけではなく、一歩進めて人体を全体的に捉える事で得られ

た知識を、それぞれの分野での教育・研究・医療実践に役立ててもらう事を、一つの大きな目標として掲げています。このセミナーはこの目標を十分に達成できたと考えています。

熊本大学大学院生命科学部形態構築学分野 准教授 川井 克司

### 「熊本大学医学部附属病院群 卒後研修プログラム研修医育成」 についての報告

熊本大学医学部附属病院総合臨床研修センターの「熊本大学医学部附属病院群 卒後研修プログラム研修医育成」に対し、肥後医育振興会から頂きました平成二十一年度助成につきまして心よりお礼申し上げますとともに、この機会に、本センターの設立からの経過、そして活動についてご報告させて頂きます。

本センターは、「優れた医療人の育成」という本院の使命を果たす拠点として、平成十二年十月に院内措置として設置されたことに始まります。平成十五年四月には、予算措置を伴う現在の形のセンターとなり、初代センター長として小野友道教授（皮膚科学）、その後、教育・研修担当副院長の任にある木川和彦教授（総合診療部）、興梠博次教授（呼吸器内科学）が就任し、平成二十一年四月からは、私が務めさせて頂いております。

本院のさまざまな職種に対する教育の中でも特に、平成十六年から必修化され

た医師臨床研修制度における『熊本大学医学部附属病院群卒後臨床研修プログラム』の運営に関して、重要な役割を果たしています。この研修制度の開始後、全国で研修医の大病院離れが進み、大病院の多くの診療科・部への入局者の減少、結果として地域の医師不足を招いています。本センターでは、附属病院の各診療科・部に加え、熊本県内を中心とした関連医療機関等の協力を得て、大病院内外での教育研修ネットワークの構築に取り組み、充実した臨床研修プログラムの提供を図っております。平成二十二年

度から、研修制度の基本理念は維持される中でその一部が改正され、プログラムの概略は、四種類のコースを基本とし、小児科と産婦人科を対象とした二種類の特化コースを新たにに加え、九つのプログラムを用意しています。本院の臨床研修プログラムは、この十年間地方の大学にあつては常時トップ10にランクされる高いマッチング率を示し、臨床研修の実績を積み重ねています。

平成十八年の中央診療棟の竣工により、同七階に本センターは新しい場を与えられ、平成二十年には高度な臨床技能を身につけるためのさまざまな臨床シミュレーター教育システムを構築致しました。このような充実した設備とともに、種々の専門分野や職種の医療従事者に対し、多くの教育プログラムが提供されています。さらに、『生涯教育・研修医セミナー』を年に六回開催し、研修医のみならず大病院内外の医療従事者が身につ

けておくべき基本事項を中心とした学習会も企画、実施しています。一方、指導する側の能力向上のために、厚生労働省が定める指導医資格修得のための講習会を平成十三年より毎年開催しており、今年までに延べ四百名が医政局長からの修了証書が授与され、地方の大病院にあつては類をみない実績です。

新たな活動として、文部科学省が掲げた「大病院連携型高度医療人養成推進事業」において、熊本大学を主管校に大分大学、宮崎大学とともに構築した『九州三大病院合同専門医養成プログラム』が平成二十年度に採択され、平成二十四年度までの期間、宇宿功市郎教授（本センター副センター長）が統括、運営しています。このプログラムでは、総合的な臨床能力と研究能力を備えた専門医の養成を目標とし、三大病院が連携・相互補完しながら、地域医療支援と臨床研究推進の共有システムの構築を目指しています。最大の特色は、臨床シミュレーション教育と遠隔教育のシステムを共有し、加えて参加医師のキャリアデータの蓄積を行いながら、地域総合医療の共通プログラムを開発することで、臨床研修・研究キャリアパスの充実を図ることです。具体的には、三大学間で連携専門研修医養成プログラムを作成し、連携カンファレンス、連携手術見学での修練、連携シミュレーション教育トレーニングを定期的に開催し、大病院からの地域への巡回指導も行っていきます。連携プログラムには現在一〇診療科（呼吸